

京丹後市立病院改革プラン

評 価 調 書

(令和2年度)

久美浜病院

項目		目標	R2 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中				
地域医療構想を踏まえた役割の明確化	地域医療構想を踏まえた果たすべき役割	常勤医師体制の確保・充実により、急性期から慢性期まで市民の期待に応えられる医療施設	<p>内科医や外科医、眼科医の増員に向け招へい活動を行い、年度内の実現はできなかったが、次年度には府立医科大学より派遣していただく交渉を進めることができた。また、コロナ禍ではあったが、感染防止対策を施しながら外科や整形外科、歯科口腔外科など安定した診療体制の維持により手術件数を維持するとともに、必要な治療を積極的に行った。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、特に内科と小児科患者数は激減することとなった。</p> <p>入院患者数 46,381人（前年度比 7,636人減）[B] 外来患者数 69,346人（前年度比 7,745人減）[B] 救急患者数 3,859人（前年度比 2,144人減）[C]</p>	B	
		市内で唯一の小児救急病院を含む救急告示病院としての救急医療体制の堅持	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により小児患者数は激減したものの、小児科医師2名体制を維持し、年間1,367人の小児救急患者の受入を行い、市内で唯一の小児救急病院としての役割を果たした。また、平成31年4月に開設した小児外科・小児歯科では、子育て支援日本一のまちづくりへ貢献することで、市内における小児診療拠点として子育て世代の不安の解消と通院などの負担軽減に役立った。</p> <p>小児患者数 7,440人（前年比 4,559人減） [C] 小児外科患者数 55人（前年比119人減） [C] 小児歯科（学童）患者数 445人（前年比32人増） [A]</p>	B	
		医療と保健、介護、福祉を一体化した地域包括医療・ケアシステムのさらなる推進のための中核的な医療施設	<p>関係団体や福祉施設の職員との地域ケア会議の定期開催により多職種間での連携強化の取り組みを推進した。また、地域医療連携室では多くの医療・福祉の相談を受け積極的な支援を行い、但馬地域からの多くの患者受入れにつなげた。</p> <p>相談件数 16,763件（前年比 1,758件増） [A] 但馬地域受入件数 6,561人（前年比 139人増） [A]</p>	A	
		障害児者を含む歯科口腔疾患の北部の拠点的な歯科診療施設としての医療体制の充実	<p>平成31年4月に歯科口腔外科内に京丹後市口腔総合保健センターを設置し、市健康推進課とともに「お口の健康（健口）づくり」事業による口腔ケアの推進に取り組み、府北部の歯科診療施設の拠点施設としての役割を果たした。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により障害児者の患者数は激減した。</p> <p>歯科患者数 19,259人（前年度比 293人増） [A] （入院 3,384人、外来 15,875人） うち障害児者 745人（前年度比 630人減） [C] （入院 25人、外来 703人、訪問 17人）</p>	B	

項目		目標	R2 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中				
地域医療構想を踏まえた役割の明確化	地域医療構想を踏まえた果たすべき役割	訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションなど在宅医療、在宅支援のための医療体制の充実	<p>地域医療・在宅医療への支援として、引き続き訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションなどの体制を維持した。特に新型コロナウイルス感染症による受診控えにより在宅療養の需要の高まりを受け、訪問看護体制の充実を図り大幅に訪問回数を増やした。</p> <p>訪問診療 90人（前年度比 12人増）[A] 訪問看護 8,505人（前年度比 1,480人増）[A] 通所リハビリテーション 3,993人（前年度比 189人減）[B] 看取り支援 42人（前年度比 12人増）[A] 医師派遣（福祉施設） 259回（前年度比 11回減）</p>	A	
		へき地医療拠点病院としてのへき地診療所への医療支援	<p>前年度に引き続き佐濃診療所へ医師、看護師、薬剤師の派遣を週1回行い、医師不在地域の医療を支えた。</p> <p>医師派遣（佐濃診療所） 47回</p>	A	
		各種検診事業への医師派遣など予防医療への支援	<p>市内の保育所や小学校等の学校医としての予防接種や、各団体や施設の嘱託医、産業医としての医師派遣も積極的に行った。また、コロナ禍ではあったが、人間ドックや脳ドック等の受入体制を整え、健診事業に積極的に対応した。</p> <p>人間ドック 48件（前年比 4件減） [B]</p>	B	
平成37年(2025年)における具体的な将来像	現在の医療提供体制や病床機能を維持しながら地域包括医療・ケアシステムをさらに推し進め、医療と保健、介護、福祉の連携によって「住民が安心して暮らし、老うことのできる地域づくり」の拠点施設としての役割を果たす	急性期から慢性期、さらには在宅医療まで切れ目のないサポートの出来る病院としての医療体制や病床機能を維持し、京丹後市における住民のかかりつけ医として、引き続き住民の健康と安心を守る地域づくりの拠点施設としての役割を果たす		A	
		築35年を経過し老朽化した第2病棟の整備をはじめ、地域から要望の高い透析治療などの医療体制の拡充を図るため、第1病棟、第3病棟を含めた病院全体の整備のあり方の検討を行う	<p>新型コロナウイルス感染症防止を図り、徹底した感染対策の下、可能な限り手術を行い、医療収益の減少を最小限に抑えるように努めた。なお、頻繁に発令された緊急事態宣言等により、今後の病院整備の在り方を検討する場を設けることはできなかった。しかし、新型コロナウイルス感染症に対する住民の不安により、一層の新病院整備への期待が高まっており、次期病院改革プラン等において、病院整備の在り方を検討していくものとした。</p>	C	
	地域包括医療・ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割	地域に密着した医療施設として保健・介護・福祉との連携機能をさらに充実させ地域包括医療・ケアシステム推進のための中心的な役割を果たす。また、本システムの推進のため、病床の一部を新たに地域包括ケア病床への転床を検討し、在宅復帰支援に向けた機能を強化	<p>開業医が極めて少ない当地域において、当院が地域住民のかかりつけ医としての役割を持ちながら急性期医療から慢性期医療、さらには在宅医療まで幅広く医療を提供できる医療機能の維持に努めた。</p> <p>また、保健・介護・福祉との連携機能の充実に向け、毎月当院が中心となって地域ケア会議を開催し地域包括医療・ケアをさらに進めた。</p> <p>地域包括ケア病床への転床については、人件費の増加に対する費用対効果の検討結果により、転床は行わず現在の病棟区分のまま在宅復帰支援に向けた強化を図ることとした。</p>	A	

項目		目標	R2 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中				
地域医療構想を踏まえた役割の明確化	住民の理解のための取り組み	<p>①病院まつり、院内学会などを通じた「開かれた病院づくり」の推進</p> <p>②市広報紙、病院広報紙、病院ホームページを活用した情報の発信</p> <p>③病院出前講座、住民主催の学習会等への講師派遣や共同開催等、積極的に住民と意見交換を行うことを通じた住民との相互理解による病院運営の推進</p>	<p>①「開かれた病院づくり」を推進するため、11月に第6回久美浜病院まつり、2月に第16回院内学会（地域包括医療・ケア学会）を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止を余儀なくされた。[C]</p> <p>②ホームページの積極的な更新により病院運営の広報に努めたが、病院広報誌は発行できなかった。[C]</p> <p>③新型コロナウイルス感染症の影響により、出前講座や懇談会は控えたが、当該感染症の予防対策等の出前講座は実施した。 出前講座 3回 参加者延90人（前年比765人減）[C]</p>	C	
経営の効率化	民間的経営手法の導入	<p>①キャッシュ・フロー計算書を重視し徹底した資金管理</p> <p>②人員管理の徹底を図り効率的配置</p> <p>③経営コンサルタントによる第三者評価</p> <p>④データを活用した経営分析による職員のコスト意識の醸成</p>	<p>①資金の流れを確認しながら経営を行ったが、入院患者、外来患者数の減少による医業収益の減少により資金が減少した。[B]</p> <p>②経営状況を考えたうえで適正な人員配置を行った。[B]</p> <p>③経営コンサルタントと定期（毎月）や随時、協議を重ねながら収益増加や費用削減の方法を模索した。[A]</p> <p>④各職場の長に毎月の会議において経営状況を周知し、全職員へのコスト意識の徹底を図った。[A]</p>	B	
	事業規模	現在の170床の床規模（一般病床110床、療養病床60床）を維持	現状の病床機能を維持することとした。	A	
	経費削減・抑制対策	<p>①医薬品の両病院共同による価格交渉</p> <p>②診療材料等の一括購入や価格交渉による徹底した価格の削減</p> <p>③医療機器の徹底した価格比較と競争入札による安価な購入・契約価格の削減</p> <p>④ジェネリック医薬品への効率的な切り替え</p> <p>⑤光熱水費の削減（LED化、照明センサー化など）</p>	<p>①弥栄病院との医薬品の共同購入による購入費価格の削減を図った。（全国平均を下回る購入価格）。[A] 上期妥結価格の目標達成率 103.10% 下期妥結価格の目標達成率 100.45% ※全国中央値を100を目標とした</p> <p>②SPD業者との毎月協議により、診療材料等の切替えや価格交渉により購入総額を削減。 削減額 約2,500千円（前年度契約単価で比較） [A]</p> <p>③経営コンサルタントから得た医療機器の全国的な購入価格を参考にし入札価格を抑えた。[A]</p> <p>④取扱いメーカーを検討し、可能な限りジェネリック医薬品への切替を行った。 後発医薬品利用率 ・令和3年3月末 86.8%（前年比0.7%増） [A] （ジェネリック医薬品のある薬品の総使用量に対する使用量の割合） ・全採用薬 1,555品目中 333品目 採用率 21.4%</p> <p>⑤病院全体のLED化について、初期投資額が大きいいため、リース方式など投資額が抑制できる方法により導入を目指したが、契約方法の協議に時間を要したことから引き続き検討することとした。 [B]</p>	A	

項目		目標	R2 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中				
経営の効率化	収入増加・確保対策	<p>①新たな加算、管理料、指導料などの算定に向けた診療機能・人員配置の検討</p> <p>②地域包括ケア病床の設置による、入院費用単価の増額</p> <p>③臨床検査の内容、手順の見直しによる検査件数の増加</p> <p>④専門外来の開設、夜間診療の実施など医療ニーズを踏まえた外来患者の増加</p> <p>⑤社会福祉士の配置など患者や患者家族との医療相談窓口体制の充実</p> <p>⑥診療報酬請求に係る精度管理の徹底と院内研修、外部研修の実施</p> <p>⑦未収金に係る法的対応の実施</p>	<p>①後発医薬品使用体制加算の高レベルを維持し、診療報酬の増収を図った。</p> <p>施設基準の新規届出等による効果額 111万円 [A]</p> <p>②継続して地域包括ケア病床の検討を行ったが、転床による増収効果より人件費等の費用増が大きいなど課題があったため、現時点では転床はしないこととした。</p> <p>③検査状況について医師等へ定期的に報告を行い、検査件数の増加に努めたが、患者数の減少に伴い検体検査も減少した。</p> <p>検体検査総点数 9,213千点 (305千点減) [B]</p> <p>④専門外来として平成31年4月に小児外科、夜診帯小児歯科 (学童外来) を開設し、さらに令和2年11月には糖尿病内科を開設し、新たな医療ニーズに応じて外来患者の増加を図った。</p> <p>夜診 (内科) 231人 (前年比103人減) [C] (歯科学童含) 517人 (前年比 77人増) [A] 小児外科患者数 55人 (前年比119人減) [C] (外来 33人 入院 22人) 糖尿病内科 74人 [A]</p> <p>⑤福祉施設や他病院との連携をさらに推し進め、相談窓口の充実に努めた。</p> <p>【再掲】相談件数 16,763件 (前年比 1,758件増) [A]</p> <p>⑥精度管理報告会を行い、診療報酬請求の徹底を図った。</p> <p>査定率 0.20% (前年比0.09%減) [A]</p> <p>⑦未収金の発生防止のため、電話や文書での支払催促を徹底するとともに弁護士法人へ回収業務を委託した。当年度に回収困難となったケースの法的対応については対応すべき案件がなかった。</p> <p>窓口未収金 (3月末) 18,756千円 (前年比1,355千円の減) [A]</p>	B	

項目		目標	R2 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中				
経営の効率化	人材育成	<p>①医師・歯科医師臨床研修医などの積極的な受入れによる質の高い医療従事者の育成</p> <p>②関係大学病院等との連携による若手医師の研修支援による医療技術の向上</p> <p>③認定看護師など専門性の高い知識や技術を習得するための職員研修の充実</p> <p>④患者満足度の向上のための接客研修の強化</p>	<p>①京都第二赤十字病院や洛和会音羽病院から初期研修医や専門医研修医を受入れたほか、病院独自に歯科の後期研修医を受け入れた。なお、コロナ禍でもあり、関係大学や専門学校より多くの研修医や臨床実習生の受入れはできなかったが、オンラインによる当院紹介など、若手医師の確保につながる情報提供に努めた。 [A]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期研修医 京都第二赤十字病院 9人×2ヶ月 ・専攻医研修医 京都洛和会音羽病院 4人×3ヶ月 京都第二赤十字病院 2人×3ヶ月 ・歯科後期研修医 1人×12ヶ月、2人×6ヶ月 ・看護学生 日星高校、京都府立看護学校など 49人 ・言語聴覚士研修生 姫路医療福祉専門学校 1人 ・消防本部救急救命士研修（就業中研修） 京丹後市消防本部、与謝宮津消防組合消防本部 44人 <p>②なお、関係大学等との連携による医学生の地域研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり受入れはなかった。</p> <p>③認定看護師の資格取得研修への参加はないが、各種研修会に参加し専門知識や技術の習得に努めた。[A]</p> <p>主な資格取得・研修参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者研修 1人 ・医療安全管理者研修 2人 ・認知症ケア加算研修 4人 ・退院支援看護師研修 1人 ・認定看護管理者（ファースト、セカンドレベル） 各1人 ・研修責任者研修 1人 ・教育担当者研修 1人 ・喀痰吸引指導者研修 2人 ・精神科訪問看護研修 2人 ・災害支援ナース研修 3人 ・災害支援ナース育成指導者研修 1人 ・「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修 4人 <p>④「接客向上委員会」を定期開催し、患者サービス向上の為に院内接客研修や各職場で身だしなみチェックを実施した。 また、毎年、患者満足度調査を実施し、その結果を活用し、より患者さんから選ばれる病院づくりに向けた取り組みを実施した。[A]</p>	A	

項目		目標	R2 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中				
経営の効率化	その他	公立豊岡病院(急性期病院)など近接する兵庫県北部の医療機関との連携強化による診療圏の拡大	<p>コロナ禍ではあったが、地域医療連携室を通じた日常的な情報共有等により積極的な連携維持に取組み、その結果、豊岡病院を含む但馬地域の医療機関から多くの患者を受け入れた。</p> <p>但馬地域からの患者受入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者数 6,561人（前年比139人増）[A] ・外来患者数 3,022人（前年比242人増）[A] 	A	